

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2027
基本計画

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会

令和8年5月26日

目次

1	開催趣旨	2
2	芸術祭コンセプト	3
3	開催概要	4
	(1) 名称	4
	(2) 会期	4
	(3) 開催エリア	4
	(4) アート作品設置市町村	4
	(5) 主催	4
	(6) アートディレクター	6
	(7) ロゴマーク	7
4	プロジェクトの構成	8
5	広報	9
	(1) 方針	9
	(2) 取組内容	9
6	受入環境の整備・来場者への対応	10
	(1) 方針	10
	(2) 取組内容	10
7	観光・文化振興	11
	(1) 方針	11
	(2) 取組内容	11
8	地域交流・学校連携	12
	(1) 方針	12
	(2) 取組内容	12
9	サポートスタッフ	13
	(1) 方針	13
	(2) 取組内容	13
10	鑑賞券・オフィシャルグッズの展開	14
	(1) 方針	14
	(2) 取組内容	14
11	企業協力・協賛	15
	(1) 方針	15
	(2) 取組内容	15
12	スケジュール概要	16

1 開催趣旨

岡山県北部には、中国山地の雄大な自然、旧街道の宿場町や城下町として栄えた歴史ある街並み、古くから受け継がれた伝統芸能、多彩な農産物など、瀬戸内海沿岸部とは異なる風景、文化、魅力的な地域資源が数多くあります。

これらの地域の魅力をこれまで以上に広く認知してもらい、「アート」という新たな切り口により地域の魅力を引き出すため、県北部の12市町村をエリアとする国際芸術祭として「森の芸術祭 晴れの国・岡山」を2024年秋、初めて開催しました。

12の国・地域から42組43人のアーティストを迎え、5市町（津山市、新見市、真庭市、鏡野町、奈義町）の21会場にアート作品を展示した初回芸術祭には、想定を大きく上回る延べ約52万人の方々に来場いただきました。芸術祭の開催を通じて、アートには、地域の潜在的な価値を引き出し、人々をつなぎ、活力を生み出す力があることをあらためて確信したところです。

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2027は、初回芸術祭で築き上げた基盤の上に、来場者、アーティスト、そして地域の人々が一緒になって創り上げる新たな芸術祭です。多様なアート作品との出会いが、皆さまの想像力を刺激し、心揺さぶる感動や新たな気づきをもたらすことでしょう。そして、アートが地域と深く結びつくことで、その文化や暮らしに新たな光を当て、地域が未来へ向かってさらに輝くための力となることを目指します。

本芸術祭は、アート作品を核とした広域的な周遊を一層促進し、地域全体の観光消費の拡大と交流人口の増加に貢献します。地域の方々にとっては、アーティストや来場者との非日常的な触れ合いが、地域の魅力を再認識し、より一層、地域を誇りに感じる貴重な機会となるでしょう。

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2027が、岡山ならではの、県北部ならではの国際芸術祭として、文化、観光、そして地域全体の持続的な発展に寄与するよう、県全体で取り組んでいきます。

2 芸術祭コンセプト

森に耳を澄ませ、その感性とチューニングすることで身のまわりの自然や文化を再発見しようとした初回の芸術祭の考えを一步進め、今回は「前に進む森」という新しい視点を掲げます。それは、今日よりほんの少し良くなっていく明日へ向かって、ゆっくりと変化し続ける森の姿です。このイメージの背景には、ケヴィン・ケリー¹の提唱する「プロトピア」という考えがあります。それは、理想郷（ユートピア）でも悲観的な未来（ディストピア）でもなく、日々の小さな改善の積み重ねによって、現実の中でよりよい社会を育てていこうとする視点です。

本芸術祭では、このプロトピアの思想と、社会的共通資本の考え方を重ね合わせます。それは、芸術祭を起点として、テクノロジー、農業、福祉、教育など、さまざまな分野の人々が出会い、協働する場をひらきます。そして、自然やインフラ、制度といった、私たちが共有する大切な基盤を守りながら、次の世代へとつないでゆきます。

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2027 は、岡山県北部を舞台に、地域に眠る資源や文化をあらためて見つめ直し、小さな実践を積み重ねていきます。それは作品をつくることにとどまらず、人と自然、文化と暮らしの関係をゆるやかに編み直していく試みでもあります。こうしたプロセスを通じて、訪れる人にも、そこに暮らす人にも、新しい視点や誇りが生まれ、地域の内側から未来へ向かう力が育まれていくことを願っています。

アートディレクター 長谷川 祐子

¹ アメリカの編集者・思想家・テクノロジー評論家。テクノロジーと社会、未来予測に関する著作で知られ、雑誌『WIRED』の創刊編集長の一人。人工知能やインターネット、分散型社会について早くから論じてきた人物として、世界的な影響力を持つ。

3 開催概要

(1) 名称

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2027

(英語表記)

Forest Festival of the Arts Okayama: Clear-skies Country 2027

(2) 会期

2027年9月18日(土)～同11月23日(火・祝)(67日間)

(3) 開催エリア

津山市、高梁市、新見市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町

(4) アート作品設置市町村

津山市、高梁市、新見市、真庭市、鏡野町、勝央町、奈義町

(5) 主催

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会

会長 伊原木隆太(岡山県知事)

副会長 萩原誠司(美作市長)

〃 石田芳生(高梁市長)

〃 林秀樹(西日本旅客鉄道(株)理事 中国統括本部岡山支社長)

顧問 太田正孝(岡山県議会議長)

アートディレクター 長谷川祐子

サイエンティフィックアドバイザー エマヌエーレ・コッチャ

(哲学者/フランス国立社会科学高等研究院准教授)

アート地域共創アドバイザー 宮田裕章(慶應義塾大学医学部教授)

地域文化アドバイザー 岸本和明(奈義町現代美術館館長)

太田三郎(現代美術作家)

構成団体 岡山県、津山市、高梁市、新見市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町、西日本旅客鉄道(株)、

(公社)岡山県観光連盟、美作国観光連盟、(公社)岡山県文化連盟、岡山県教育委員会、大学コンソーシアム岡山、岡山県市長会、岡山県町村会、岡山県経済団体連絡協議会、(一社)岡山県商工会議所連合会、岡山県経営者協会、

(一社) 岡山経済同友会、岡山県中小企業団体中央会、岡山県商工会連合会、
(公社) 岡山県バス協会、(一社) 岡山県タクシー協会、(一社) 岡山県レンタカー協会、全日本空輸(株)岡山支店、日本航空(株)岡山支店、(一社) 日本旅行業協会中四国支部岡山地区委員会、(一社) 全国旅行業協会岡山県支部、岡山県旅館ホテル生活衛生同業組合

(6) アートディレクター

長谷川 祐子

キュレーター／美術史家。
京都大学経営管理大学院 客員教授、東京藝術大学 名誉教授、国際文化会館 アートデザイン部門プログラムディレクター、総合地球環境学研究所 客員教授、犬島「家プロジェクト」アーティスティック・ディレクター。
前金沢 21 世紀美術館 館長。

文化庁長官表彰(2020 年)、フランス芸術文化勲章シュヴァリエ(2015 年)、ブラジル文化勲章(2017 年)、フランス芸術文化勲章オフィシエ(2024 年)を受賞。



これまでイスタンブール(2001 年)、上海(2002 年)、サンパウロ(2010 年)、シャルジャ(2013 年)、モスクワ(2017 年)、タイ(2021 年)などでのビエンナーレや、フランスで日本文化を紹介する「ジャパノラマ：日本の現代アートの新しいヴィジョン」、「ジャポニスム 2018：深みへー日本の美意識を求めてー」展を含む数々の国際展を企画。

2006 年から 2016 年まで多摩美術大学教授、2016 年から 2023 年まで東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授を務める。2023 年にはカ・フォスカリ大学、2025 年には IUAV 大学の客員教授を歴任。

主な著書に、『キュレーション 知と感性を揺さぶる力』、『破壊しに、と彼女たちは言う：柔らかに境界を横断する女性アーティストたち』、『ジャパノラマ：1970 年以降の日本の現代アート』、『新しいエコロジーとアート：「まごつき期」としての人新世』。

(7) ロゴマーク



デザインコンセプト

芸術祭のビジュアル・アイデンティティは、光と影の二面性から着想を得ています。そして、新鮮で現代的な色彩を用いたメッシュ状のデザインは、地元の工房で作られた繊細な草木染の織物から着想を得ており、デザインに明るさと透明感を生み出しています。また、県北の自然を撮影した写真と組み合わせることで、芸術祭と景観との共生を表現することができます。

デザイナープロフィール：バーンブルック・スタジオ（イギリス）

バーンブルック・スタジオは、1990年にジョナサン・バーンブルックによって設立されました。デザインは社会にポジティブな変化をもたらすことができると信じ、世界各地でさまざまな文化的、社会的プロジェクトに取り組んでいます。代表的な作品に、デヴィッド・ボウイのレコードジャケットがあり、彼の最後のアルバム「ブラックスター」では、グラミー賞を受賞しています。また、日本との関係も深く、東京の森美術館や六本木ヒルズのブランディングを手がけています。

4 プロジェクトの構成

本プロジェクトは、芸術祭を核として、観光振興と文化振興の2本の柱から構成し、県北部はもとより県全体の持続的な地域振興を図ります。

アーティストとの交流や多くの観光客が地域を訪れることにより、地域住民が今まで気づかなかった地域の魅力を再認識し、地域を愛する心や誇り、いわゆるシビックプライドの醸成につなげるとともに、開催にあたっては、地域づくりに関わる人々をはじめ、多様な主体とも積極的に連携し、地域の活力向上を図ります。

<観光振興>

現状の課題として、本県を訪れる観光客は交通網の充実した県南部に集中していることが挙げられます。一方で初回芸術祭では、県北部の豊かな自然や歴史ある地域資源とアートを融合させることで、県北部へ新たな誘客効果を創出しました。

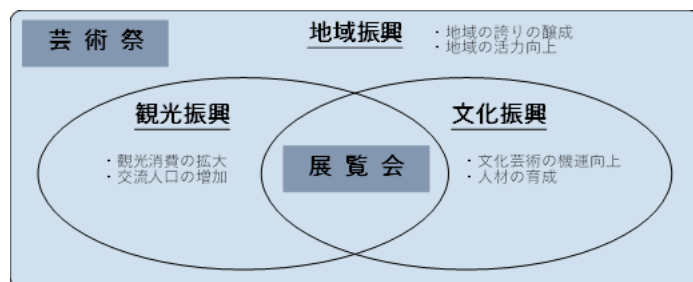
そこで、この成功をさらに発展させ、アート作品を核とした広域的な周遊を促進し、より質の高い滞在体験を提供することで、観光誘客を強化します。これにより、県北部のみならず県全体の観光消費拡大及び交流人口増加につなげることを目指します。

<文化振興>

県北部では、美術館等での意欲的な企画展の開催や、アーティスト・イン・レジデンス、美作三湯芸術温度をはじめとするアートイベントなどの多彩な取組により、積極的に地域にアートを取り入れる素地ができています。

こうした中、初回芸術祭の開催を契機として、県民のアートに対する関心は高まっており、地域づくりに文化芸術活動を生かす動きも見られます。

今後は、国内外の多様なアーティストによる質の高い作品鑑賞の機会を提供するだけでなく、地域住民がアートに「参加」する機会を積極的に創出します。これにより、文化芸術活動の裾野の拡大や、アートによる地域活性化に取り組む人材の育成を促進します。



5 広報

(1) 方針

想定を大きく上回る来場者を迎えた初回芸術祭では、芸術祭の認知度向上と地域住民の理解促進に一定の成果を得ることができました。この実績を土台として、国内外における「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2027 の認知度をさらに高めることを目指します。

また、アート作品を核とした広域的な周遊を一層促進するため、早期からの戦略的な情報発信を展開します。アート作品や参加アーティストの魅力に加え、開催エリアが持つ雄大な自然、歴史、食文化といった優れた地域資源を総合的に発信し、国内外から幅広い層の誘客とリピーターの増加につなげます。

(2) 取組内容

今後、芸術祭の情報を順次公開し、広報資材の計画的な制作と国内外に向けた早期の情報発信を目指します。

作品制作のプロセスや、作品に込められたメッセージ、地域との関わりといった魅力を会期前から積極的に発信することで、来場意欲を醸成します。

情報発信はSNSや公式Webサイトを中心としつつ、多言語対応やメディアとの連携を強化し、海外からの誘客を図ります。

また、地域住民の参加意識を高めるための情報提供や、ポスター、チラシ、新聞などのオフライン広告も効果的に組み合わせ、アートに関心の薄い層を含め、幅広く芸術祭の魅力を伝えます。県や市町村等の観光・文化施策とも連携し、芸術祭の開催を盛り上げていきます。

6 受入環境の整備・来場者への対応

(1) 方針

作品設置が初回芸術祭よりもさらに広範囲に及ぶことから、周遊の際の来場者の利便性を一層向上させる必要があります。多くのアート作品と周辺の観光等を楽しんでもらえるよう、質の高い情報提供を行うことで、効率的かつスムーズな移動手段を確保するとともに、快適な滞在環境の整備を進めます。

また、サステナビリティにも配慮し、地域との共生を図りながら、来場者の記憶に残る体験を提供することを目指します。

(2) 取組内容

交通事業者等との連携を強化し、広域周遊を促す効率的な移動手段を確立します。特に、課題である移動時間の最適化を図り、観光地と組み合わせた魅力的なオフィシャルツアーを検討します。

また、案内表示やインフォメーションセンターを充実させ、来場者の利便性向上に努めます。

さらに、宿泊事業者や市町村等と連携し、多様なニーズに対応できる宿泊施設や駐車場の確保に努めます。

加えて、多言語対応を強化するとともに、ガイドブックやWebサイトでモデルコースを提案するなど、きめ細やかな情報提供を行うことにより、アート作品だけでなく周辺の観光施設への誘客を図ります。

7 観光・文化振興

(1) 方針

市町村や観光団体、文化団体等と連携しながら、観光振興及び文化振興の両面から地域振興を図ります。

観光振興については、開催エリアの観光資源を活用し、エリア内の周遊を促進します。

文化振興については、芸術祭と連携したイベントの開催等を通じて、文化施設への誘客を図ります。

(2) 取組内容

開催エリアは数多くの魅力的な観光資源に恵まれており、点在するこれらを結ぶ周遊ルートの設定や一体的な情報発信に取り組みます。

さらに、県や市町村、観光関係団体等が実施する観光イベントや観光プロモーション事業とも効果的に連携し、エリア内での周遊を促進します。

また、県内では、美術館などの文化施設において、企画展や地域の文化イベントなど、様々な取組が行われています。本芸術祭と親和性の高いこれらの事業と連携することで、県全体の文化芸術活動の活性化と交流人口の増加を図ります。

8 地域交流・学校連携

(1) 方針

芸術祭の開催に併せて、地域住民がアーティストや来場者などと交流できる様々な機会を生み出すことにより、地域の活性化に寄与します。

また、学校等と連携し、子どもを含む若い世代が質の高いアート作品に触れる機会を提供します。

(2) 取組内容

アーティスト・イン・レジデンスなど交流型のイベントの実施を通じて、地域住民とアーティストとの交流を図ります。

また、地域住民や地元企業、学校、地域づくりに携わる人々が、芸術祭に関わることにより、アートを活用した地域づくりにつなげます。

さらに、学校と連携した校外学習において、子どもたちに様々なアート作品を鑑賞する場を提供することにより、次世代を担う子どもたちが豊かな感性や創造性を育む場として、芸術祭の開催効果を教育に還元します。

9 サポートスタッフ

(1) 方針

本芸術祭の成功には、多くのサポートスタッフの協力が不可欠です。作品制作の補助や会期中の会場運営サポートに加え、来場者がエリア内の周遊を楽しめるよう、コンシェルジュとしての役割も期待されます。

関係団体と連携しつつ、幅広い年代からサポートスタッフを募集するとともに、スタッフが自信とやりがいを持って活動できるよう、人材育成に取り組むことにより、サポートスタッフと来場者双方の満足度向上を目指します。

(2) 取組内容

県内だけでなく県外からも広く参加者を募るため、地元町内会や学校、企業、団体への働きかけに加え、SNSやWebサイトを活用した多角的な募集活動を展開します。

来場者の受付、会場案内といった運営のサポートに加え、周辺観光施設やアクセス方法の案内といった周遊のサポートも重要です。多岐にわたる活動内容をカバーするため、適切なカリキュラムを編成し研修を行います。

また、作品に関する知識や、各会場特有の活動内容など、活動に必要な情報を事前に共有できる体制を整えます。

さらに、サポートスタッフ自身が今後も本芸術祭と地域のファンになってもらえるような取組も検討します。

10 鑑賞券・オフィシャルグッズの展開

(1) 方針

来場者の利便性やチケット管理の効率性を考慮した鑑賞券制度を検討します。また、ロゴマークや地域の特徴を生かした魅力的なオフィシャルグッズの開発・展開を通じて、芸術祭と地域の魅力を発信します。

(2) 取組内容

初回芸術祭におけるチケットの販売状況等から来場者のニーズを検証し、券種や販売期間、販売場所などを検討することにより、来場者にわかりやすく利用しやすい鑑賞券制度を整備します。

また、芸術祭や地域の魅力がより一層伝わるよう、オフィシャルグッズの開発やその販売場所について、検討を行います。

1 1 企業協力・協賛

(1) 方針

本芸術祭の開催趣旨に賛同する企業の協力・協賛を得ることで、芸術祭の成功と強固なパートナーシップの構築につなげます。

(2) 取組内容

本芸術祭の開催趣旨に賛同する県内外の企業に対し、積極的に協力・協賛を呼びかけ、より多くの企業とのパートナーシップ構築を目指します。

特に、社会貢献活動を積極的に推進している企業に対し、芸術祭への参画を働きかけ、企業と地域のつながりの創出を図ります。

また、各企業独自の事業分野において様々な協力を得ることで、他の芸術祭との差別化や開催趣旨の多角的な実現を図ります。

1.2 スケジュール概要

年	月	取組
2026	4~6	●基本計画策定 招聘アーティスト検討 作品展示施設検討
	7~9	
	10~12	●実施計画策定（参加アーティスト一部発表） プレイベント実施
	1~3	会場運営計画策定
2027	4~6	●詳細計画策定（全参加アーティスト発表） プレイベント実施
	7~9	作品制作
	10~12	芸術祭会期【9月18日（土）～11月23日（火・祝）】
	1~3	●開催報告書公表